

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区蒲田一丁目2番13号
園名	アスク蒲田一丁目保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

えいご～国旗・世界を知ろう～

<テーマの設定理由>

もともと行っていたキャストプログラムの英語を深めるため。  
運動会で園内に飾った万国旗にも子どもたちが興味を持ったため、国旗を通して子どもたちが世界を知り、考える機会を設けることとした。

## 2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月：日本とアメリカについて知ろう

12月：日本とアメリカ、カナダ、パキスタンについて知ろう

1月：自分の国旗を作ろう

2月：クラスの国旗を作ろう

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・国旗の絵本…日頃から子どもたちが自分で国旗を見たり、気になる国旗の国名を調べたりするために使用
- ・地球儀…様々な国の場所や日本との位置関係、国土の形に興味を持ち、調べたり、国旗のイメージを膨らませたりするために使用

#### 4. 探究活動の実践

##### 【3歳児実施分】

**問いを考える：** 世界には日本以外にどんな国や国旗があるのか考えた。国ごとの有名な食べ物や国技は何か。

**探究活動の様子：** まずは、日本とアメリカについて学んでいった。国旗の中の色や形を英語で表現したり、有名な食べ物や国技をクイズを交えて知っていったりした。アメリカの食べ物としてハンバーガーが出ていたが、子どもたちも食べたことがある為、日本の物ではないのかと混乱する様子も見られた。クイズが楽しかったようで、普段の遊びの中でも子どもたちでクイズを出し合って楽しむ姿があった。その後は、すくわくプログラムの1回ごとに2カ国ごとが増えていき、計7カ国知っていった。少しずつ増えていったことで、覚えやすかったようで国旗を見ただけで、答えられる子が多くいた。国旗作りを個人とクラスで作成した。個人で描いた際は、好きな色や形を描いたり、馴染みのある日本の国旗を模倣したりしていた。クラス作成した時は、友だちのことを考えて枠からはみ出ないように描いたり、一緒に描いている友だちと似せて描いたりしていた。どちらも皆の前で発表した。緊張しながらも、講師の言葉を復唱して英語で発表しようと頑張っていた。

**ふりかえり（保育士の気づき）：** デジタル化や家庭での英語教育が進み、他国について知っていることが多い印象があった。食べ物も身近にあり、食べたことがあるものが多く、日本のものなのか他国のものなのかの区別が難しいようだった。色や形などの単語を少しずつ覚え、間違えても言ってみようとする挑戦する姿があった。すくわくプログラムで国旗や国について学んだため、国旗の絵本をみたり、子ども同士でクイズを出したりと興味が広がっている様子が見られている。



#### 【4歳児実施分】

**問いを考える：**世界には日本以外にどんな国があるのか。その中でみんなの知っているアメリカの国旗は何色が使われているのか。様々な国旗がある中で自分の国旗を作るならどんな国旗を作るのか。クラス単位の大きな国旗を作るならどんな国旗が完成するのか考えていった。

**探究活動の様子：**初めは、世界にはどんな国旗が存在しているのか疑問が出てきたため、園にある国旗カルタを使っていった。普段から遊ぶ姿があったので国の名前と国旗の形が一致する姿が多くあった。その中で、どんな色が使われているのか、どんな形でできているのか友だち同士で伝え合う姿がある。そのなかで、みんなが知っているアメリカにフォーカスを当ててどんな色で描かれているのか絵本を使い自分たちで探していった。英語のすくわくプログラムということもあり「レッドがある」「青はブルー」「白はホワイトだよ」と使っている色を英語で伝え合いながら友だちと共有する姿があった。

絵本やカルタを通して様々な国の国旗を知っていく中で自分ならどんな国旗を作りたいか考えていった。国の国旗を参考にしてそこからアレンジする姿が合ったり、「海が好きだから水色がたくさんある国旗」「虹が好きだから虹色で書いてみた」と自分の好きなものを取り入れたりオリジナル国旗の制作を楽しむ姿があった。

個人ので国旗を作ったので最後はクラスの国旗を3つのグループに分かれて作る。年長児の作ったクラス国旗を見てテーマを決めて描かれていることを知り、同じように「海の中」「果物野菜」「お花畑」とテーマを決めて進めていった。海の中に何がいるのか図鑑や絵本を参考にしながら友だちと話し合いながら作っていく姿があった。すくわくプログラムを通して様々な国に興味を持ってどんな国があるのか子どもたち自身で探していく姿が増えていった。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**国旗カルタと身近なものを使っていくことでより子どもたちから興味を持って取り組む姿が見られるようになった。国旗から色の英語を伝えていくことでより親しみやすく覚えていくことができていると感じた。国旗に様々な形があることを知り、個人国旗でも自分の中で好きな形を入れる姿が見られ国旗をよく見ていたからこそその姿であると感じた。また、クラス国旗でも一人だけの国旗ではないからこそ友だちと話し合いながら譲り合って行っていく姿が見られた。また、自分たちで書くのが難しいと諦めるのではなく図鑑を見ながら自分たちで解決していこうとする姿に成長を感じた。



### 【5歳児実施分】

**問いを考える：**世界には日本以外にどんな国や国旗があるのか考えた。その後夏祭りや運動会で世界について調べていった。その中で日本とアメリカの年末年始に付いて興味が湧き、そこを詳しく調べていくことにした。また、色々な国や国旗に親しむ中で自分で考える国旗やクラスを作成してみた。

**探究活動の様子：**初めは世界にはどんな国があるのだろうという疑問から園にあった国旗かるたを使い、国の名前・旗の模様や色の違いについて気付いていた。もともと知っている国もあり有名な食べ物や建物、お土産など話し合い興味が広がっていた。知っている物の中にはアニメを見て知ったもののおあり話が盛り上がる姿も見られた。

12月頃になるともうすぐ長い休みに入ることから、各家庭の年末年始の予定を聞いてきてもらった。おせちを食べる・初詣に行く・お年玉をもらう…など色々な過ごし方をしている事が分かり、アメリカはどうなんだろう？という疑問が生まれた。各家庭で調べてもらうことにし、情報交換を行うとカウントダウン、クリスマスが年明けまで続いている…という声が多く上がった。日本のように伝統的な行事がアメリカにはない事に驚き「何もないのは寂しいね」「もっといろいろすればいいのに」と話していた。

世界の様々な国旗に親しんでいたのも、子ども達が自分オリジナルもの国旗を作ることにした。もともとある国旗を真似て少しオリジナルと加える見もあれば、食べ物や模様など自分が好きな物を詰め込む見もいた。作った旗をお互いに見せ合っていく中で「○○ついているの可愛いね」「かっこよく書いていてうらやましい」などお互いを褒め合う姿があった。

最後にクラスの旗作りをする。3チームに分かれて作成してみるとクラスの名前でもある「たいよう」をどのチームも入れていた。そこから「宇宙」「空にある物」「天と地」とテーマをそれぞれ決めていき書き進めていた。様々な国について調べていく事で世界への興味が広がっていた。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**国旗かるたを使用することで似たような国旗がある事に気づきそこから興味が広がっていた。行事でも世界をテーマにした為、子ども同士で知識を伝え合う良い場となった。

日本とアメリカの年末年始の違いについては宿題として家で調べ物をしてきてもらう事で就学を意識した良い経験となった。国旗（オリジナル）作りでは最後グループとなって作成することで、子ども同士で互いに今まで得た知識を教え合っていた。チームごとにした事でそれぞれ自分たちでテーマを決め、テーマに添ったものを書き完成出来たことは成長を感じた。



# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区蒲田一丁目2番13号
園名	アスク蒲田一丁目保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

おんがく～音について（鳴る仕組みについて）しろう！～

<テーマの設定理由>

元々行っていたキャストプログラムのおんがくでピアノ以外の楽器にも興味を示すようになり、どんな楽器があるのかを知っていけるようにするため。

また、音の鳴らし方や種類を知りゲームや遊びを通して学んでいけるようにしていった。

## 2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：3・4・5歳児それぞれでオノマトペを行う

12月：身近な楽器に触れる、楽器の音を聞き室内にあるもので似た音を見つける

1月：楽器の種類について学びがあり、保育園内にあるものを種類別で見つけていく

2月：3・4歳児は各々で手作り楽器を作る 5歳児：保育園にはない楽器を家で調べ、クラスで楽器のクイズ大会をする

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・オノマトペ：おんがくの講師からビンゴをもらい、保育園内にあるものから音探しをしてビンゴを完成させる
- ・鈴、ピアノ、カスタネット、ウッドブロック・アゴゴウッド：実際に楽器を鳴らし、部屋にある玩具や楽器に似た音を見つけていく
- ・玩具、机、棚：はじめは楽器に似た音を探し、次第に音の鳴らし方を種類に分けて探せるようにした
- ・手作り楽器：3、4歳児は手作り楽器を作る。保育園内に分けて探せるようにした
- ・クイズ：5歳児は初めて聞く楽器に興味を示していたので、家で調べて楽器がどんな音をするのか聞いたり、友だち（クラスで）と楽器当てクイズを行えるようにした

#### 4. 探究活動の実践

##### 【3歳児実施分】

**問いを考える：**身近にはどんな音がある？楽器にはどんな種類、鳴り方があるの？

**探究活動の様子：**9つの絵が描いてあるオノマトペビンゴを持って屋上や園内を探検し、音を探した。耳を澄ませていつも以上に音に気が付き、「ガラガラ」「ドンドン」などどのような音だったのか言葉で表現していた。「風の音が聞こえない」と保育者のもとへ走った際に「風の音がした」と面白い発見をし、驚く様子があったり、雲の上の「ゴロゴロ」という音に対し、「飛行機かな」「雷だと思う」と子どもによって違う感じ方をしたりする様子もあった。身近な音探しでは、保育室内の玩具や楽器を鳴らして似ている音や異なりを探していった。ブロックを叩き合わせて音を鳴らしたり、ギザギザの玩具をこすり合わせて「ぎこぎこ」と音を鳴らしたりして楽器とは違う音を見つけて楽しんでいた。また、楽器の種類を、叩く・震える・弦をはじく・息を吹く4種類に分類し、より詳しく学んでいった。その中で、弦楽器について理解が難しい様子が見られたため、ティッシュ箱と輪ゴムで弦楽器を作った。縦張りとは横張りで作ったことで、「ちりんちりん」「がらんがらん」と音の高低差があることに気付いていた。持ち手を作りたいという要望があったため、みんなでギターに似せて作成し、弾いたり、歌ったりすることを楽しんでいた。実際に触れたことで弦楽器の仕組みや形、音の鳴り方について知ることができていた。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**1つの音だけで子どもによって、聞こえ方や感じ方、表現の仕方が異なることを知り驚いた。保育室内の音探しは、初めは子どもたちだけで見つけることは難しかったが保育者も参加し、探す姿を見せると子どもたち自ら率先して探す姿が見られたため、導き方が大切だと感じた。今までも楽器遊びを取り入れてきたが、弦楽器など初めて触れる楽器に対する興味が強くあり、今後も様々な種類の楽器に触れていくことができる機会を作っていきたいと思った。



#### 【4歳児実施分】

**問いを考える：**生活の中にどんな音が聞こえているのか。自分たちはどんな音をつくることができるのか。鈴やカスタネット、トライアングルはどうして音が鳴っているのか。楽器を鳴らすためには叩いて鳴らす・震えて鳴らす・弦をはじいて鳴らす・息を吹いて鳴らすの4種類あり自分たちでも作って鳴らすことが出来るのか。

**探究活動の様子：**生活の中の音はオノマトペビンゴを用いてイラストを参考に音を探していった。園内で音がよく聞こえるように足音も気にしながら静かに歩く姿がある。トラックの音がすると「ブルブルだ」落ち葉は「触るとカサカサなって聞こえる」と聞こえた音を言葉にして伝える姿がある。

聞こえてくる音だけではなく、自分たちでも音は作ることが出来るのか模索してみた。お菓子の空き箱を見つけ叩いて鳴らし音を作っていく。手で叩くだけではなく、棒を使って叩くことで音の違いにも気づく姿がある。

生活発表会で鈴・カスタネット・トライアングルの楽器を使うことになり、その楽器たちはどうやって音が鳴っているのか気になる姿があったので、みんなで考えてみた。どうやったら音が鳴っているのか考えていくと鈴は中に何かが入っていることに気づき、その玉がぶつかって音が鳴っていると知る。カスタネットは凹凸があることに気づき叩くことでそこがぶつかってなっていることに気付く。トライアングルは、叩いてなる事に気付くが、手で叩いても音はならず鉄の棒だからこそなる事に気付く姿があった。

楽器には、叩く・震える・弦をはじく・息を吹くの4種類に分かれることを知るとその楽器たちは紙皿、紙コップ、割りばし、折り紙など身近なものを使って作ることが出来るのか考えてみた。紙皿同士で叩くことで「パンパン音が鳴っている」とシンバルに見立てた叩いて鳴る楽器が完成する。紙コップに丸めた折り紙を入れて紙コップを振ることで「カシャカシャ聞こえる」と震えて鳴るマラカスが完成する。紙皿を丸めて息を吐くことでリコーダーのような息を使って鳴らす楽器が完成し身の回りの材料でも似たような楽器を作ることが出来ること知った。弦を使った楽器を作ることは難しかったが、年下児のクラスがティッシュ箱に輪ゴムを付けてはじいて鳴らすギターを作っているのを見せてもらい作り方のアイデアをもらうことが出来た。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**オノマトペを行ったことで、音に敏感になり生活をしている中で聞こえた音を言葉にする姿が増え、日頃から興味をもって過ごすことができるようになってきていることに気付いた。その中で、自分の音を聞いても表現の仕方が人によって違うことに気付いていた。自分の考え以外にも様々な考え方、捉え方ができることを知るきっかけになり友だちの表現の仕方に興味を持っていけるようになってきていると感じた。



### 【5歳児実施分】

**問いを考える：**初めは保育園内にはどんな音が隠れているのかをみんなで考えた。その後実際に楽器を鳴らし似た音や鳴らし方を探索してみる。すくわくプログラムを通して楽器の種類や楽器を知っていき、自分の気になった（好きな）楽器の音を家で調べみんなにクイズを出してみよう。

**探究活動の様子：**オノマトペの紙を使用し園内探索を始める。いつも聞いている音を言語化すると色々な言い方が出てきて比べてみると感性の違いに面白さを感じるようすがあった。

楽器遊びを行い、楽器の音の違いや鳴らし方がある中で身近なものでも楽器に似た音があるのではないかと探索する。同じように探していくうちに「これは弦で鳴っている」「これは叩いて鳴るもの」と種類別で見つけていくようになる。

すくわくプログラムの中で初めて知る楽器があり興味を示す。家でどんな音でどんな鳴らし方があるのか調べてくる。調べたものの中で友達に教えたい楽器クイズを出して遊ぶ。クイズを出す際にはハープやタンバリンなど珍しい音を出す見もあればラッパや太鼓など表現しやすい問題を出すことが多かった。様々な楽器を知ったことでクイズのバリエーションも広がり、さらに楽器に興味を持った様子だった。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**初めすくわくプログラムの中でも、子どもたちが元々知っている楽器を使って活動していたが、回を重ねるごとに色々な楽器が出てくるようになり、知らない楽器や同じ形でも音の高さが違うことに気付いていた。楽しみながら楽器を知っていく姿が見られたので続けて引き続き様々な楽器に触れていけるようにしていきたい。



# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区蒲田一丁目2番13号
園名	アスク蒲田一丁目保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

たいそう～ボール・ドッジボールが強くなるために～

<テーマの設定理由>

アスクの大田区でドッジボール大会を行っているため、その大会に向けてドッジボールを強くしていきたいという子どもたちからの声があったので、どうしたら強くなれるのか考えていける機会を設けていった。

## 2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらった。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：3歳児は中当てに挑戦し4歳児はドッジボールに勝つにはどんな人か考えてみる5歳児はキャッチボールをしてみよう

12月：3歳児は狙って投げる的当てを4歳児はミニドッジボールを5歳児は中当てを行う

1月：3歳児は遠くに投げてみることに4歳児は当てるのを頑張る人はどういうボールを投げるのか、取るのを頑張る人はどうやってキャッチすればよいのか5歳児は4対4を行う

2月：3歳児はストラックアウトを4歳児はボールを避けるにはどこに避けるのか5歳児は小学生クラブチームのドッジボールを見て見る

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・ボール・デジタルエアゲージ

身近にボールを触れられるようにし、ボールへの恐怖心をなくしていけるようにするため。

・ストラックアウト：ねらいを定めて、前にボールを投げられるように意識していけるようにするために使用していった。

・ゲームジャケット：敵・味方をわかりやすくすらすらするために使用した。

#### 4. 探究活動の実践

##### 【3歳児実施分】

**問いを考える：** ドッチボールとはどんなゲームなのか。どうしたら勝てるのか。強くなれるのか。

**探究活動の様子：** 普段のボール遊びや的当てなどでは、友だちにボールを当ててはいけませんが、ドッチボールでは、友だちに当てていいゲームだということを知り、初めは困惑する様子があった。ルールを理解の為に中当てから始めた。当たったら外に出て、当てたら中に入るを繰り返していったことで少しずつ理解が進み、楽しみながら理解していった。中当ての前にどんなゲームか尋ねると「当てていいゲーム」と答える姿が増えた。しかし、ボールがなかなか当たらずないことが多くあった為、狙って投げられるようになるように的当てを行った。当てるにはどうしたらいいのか、どこを見たらいいのか一緒に考えていき「前」や「的」といった声が上がった。得点方式にした事で、前や的を見ながら“狙って投げる”を意識する様子があった。また、ストラックアウトを導入したことで、コーナー遊びの一環として楽しむ姿が見られた。その後の中当てでは、友だちを見ながら狙って投げようとする姿があった。狙って投げることが上手になってきたと同時に逃げることも上手になり、ボールから遠くへ逃げる姿があった。そのため、距離が飛ばず、ボールが友だちに届かないことが更なる課題となった。遠くに投げる練習として三角コーンと縄跳びを使用し、どこまで飛ばせるかに挑戦した。2段階作り、1つは簡単で、もう1つはギリギリ届く子もいる設定にした事で、遠くまで飛ばそうと頑張る姿が見られた。少しずつドッチボールのルールを理解していたため、最後はドッチボールに挑戦した。ビブスを着用し、チームを分かりやすくして行ったことでチームが混ざることなく行うことができていた。

**ふりかえり（保育士の気づき）：** 「当てて良い」「当ててはいけない」の理解が難しいことがわかり、普段のルールを守ろうとする素敵な姿があることに気付いた。ドッチボールでは、当たりたくないよりも投げたい気持ちが強く出ており、全面へ出ていく事が多かった。少しずつルールを理解していくと逃げたり、キャッチしたりしようとしており、理解につれて見える姿が変わっていく事がわかった。また、複数のことを同時にすることがまだ難しいこともあり、1つに集中してしまうことや手の大きさや腕の長さにより、片手で投げる事が難しかったりと身体の成長によって変わってくることもわかった。



#### 【4歳児実施分】

**問いを考える：**ドッジボールに勝つためにはどんな人が強いのか。ボールが上手に取ることができるためにはどうすればいいのか。人に当てるためにはどうすればいいのか。ボールから避けるためにはどこから逃げればいいのか。外野になった時にボールをキャッチし、すぐに投げるにはどこにいたらいいのか様々な問いについて考えていった。

**探究活動の様子：**ドッジボールが強い人というのはキャッチが出来る人、ボールを強く投げ当てる事が出来る人という声が上がった。その投げられた人になっていくためにはどういうことを意識すべきなのか考えてみることにした。

子どもたち自身もキャッチを出来るようになりたい人ボールを強く投げれるようになりたい人と得意にしたいことが分かるため、それぞれのチームに分けたミニドッジボールを行った。ゲームの中でキャッチを上手くする人は、キャッチは「片手ではなく両手で取った方がいい。」また、腕が伸びたままだとボールが跳ね返ってしまうことに気づき、腕を曲げてお皿を作っていく事が上手くキャッチできるコツであると知った。ボールを強く投げられるためには、地面ではなく前に投げることが大切だと気付いた。ただ前に投げるのではなく、当てたい相手をしっかり目で追い、遠すぎると当たらないので線ぎりぎりまで前に行こうとする。また、相手に向かって投げるときには、ボールが植えすぎてしまうと顔に当たったり取られてしまったりすることがある。しかし、足を狙いすぎると地面に当たるためお腹の下の方を狙うのがいいのではないかと具体的に考えることが出来ていた。

実際にドッジボールのゲームを行っていく中で、投げる・キャッチ以外にも避けていく必要があることを知る。避けるためにはボールから遠い所に投げていく。ただ逃げるだけではなく、背中を相手に見せずにボールを見て避けていく事が必要であると気付く。また、外野にいる人が一か所に固まってしまうとボールを追いかけるのに時間がかかってしまいすぐにボールを投げられないため、バラバラに立ちボールが飛んできた方向に近い人が取りに行くことですぐに投げられるようになることに気付いていた。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**ゲームをした後にだれのどんな姿がかっこよかったのか話し合える場を設けていく事で、友だちの姿に注目していけるようになっていった。また、友だちの姿を知っていく事で、自分自身が真似したいと思っていける環境になっていることに気付いた。ただ、ゲームをするだけではなく問いかけに対して気付いていける違うゲームを設けていく事で、「ドッジボールが強くなるために」という大きなテーマに繋がっていく事ができた。回数を重ねていく事でゲームをしながら子どもたち自身が気づき、先のことまで意識していこうとする姿が見られるようになり成長を感じた。



### 【5歳児実施分】

**問いを考える：**ドッジボールにフォーカスを当てた。ドッジボールが上手な人は何が上手なのか、どうすれば上手になれるのかを考えていった。また、ゲームをしている人と外野から見ている人とはどう視点が変わるのかを比べて話し合いながら実践していった。今まで自分たちが行ってきたドッジボールを振り返り、小学生のドッジボールをしている人たちはどうなのか見ていった。

**探究活動の様子：**今まで遊びや活動の中でもドッジボールをしてきたがあまり上達しないのか考えてみた。キャッチや投げ方、逃げ方などが挙げられた。1つ1つかみ砕いてチャレンジしてみる事にした。

投げ方では「両手で投げるとスピードが上がらない」「真上に飛んでしまう」という考えが出た。取り組んでいく中で1人の子が横から投げると強く投げる事ができたので他児もチャレンジしてみると早く投げられるが思ったところに投げらず当てられない様子が見られた。子ども同士でキャッチボールを行い、初めは近い位置で段々離れた距離で行っていくこと少しずつコントロールできるようになっていた。次にボールに気を取られすぎてしまい、近くから飛んできたボールに反応できずに当たってしまうという問題が出た。「どうしてもボールを見すぎてしまう」という声があった為、4人程のチームを作り順番に中当てゲームを行ってみた。ゲームに参加しないチームは外から様子を見てもらうことにすると「ボールに集まりすぎている」という声があるが実際にゲームに参加するとボールだけに気を取られている事が多いため、練習が必要だという考えになった。

自分たちがしているゲームでの気付きも大切だが、自分たちより年上（小学生）のドッジボールの様子を動画を通して見てみた。すると、内野はみんな横1列になり前後に向きを変えたり移動している姿があり、自分たちとは違う動きに驚きを感じていた。また、ボールを投げるスピードも早くボールを持ってすぐに投げている様子を見て、「早く投げるのはまだ難しいかもしれないが、ボールを持ってすぐに投げるのはできそうだ」とチャレンジしてみようとしていた。今まで行っていたドッジボールをさらに強くなるために様々な部分にフォーカスを当てて行っていった。得意不得意な部分もあるが全体的に「勝ちたい」思いから自分たちで考えて取り組む姿が見られた。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**子どもたちの「勝ちたい」思いから、ドッジボールが上手になる為の取り組みを行ってきた。ボールのキャッチ投げ方・逃げ方など1つ1つ過程をかみ砕いていくことで、「〇〇してみたらどうか」という子どもたちの発見も多くあった為、一緒に考え遊びの中で取り組めるようにした。やっけていくうちに、子ども自身も「〇〇ができるようになった」と目に見える結果があり自信に繋がって行くことができた。

